

新春挨拶

新春のごあいさつ



渡辺具能

厚生労働大臣政務官 衆議院議員

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、まず最初に、昨年10月の小泉第2次内閣改造におきまして、計らずも厚生労働大臣政務官(厚生担当)を拝命致しました。日頃の皆様方のご支援ご協力に感謝申し上げ、21世紀の最重要政策の柱の一つであります社会保障政策の充実にむけ最善の努力をして参る所存でありますので変わらぬご指導の程お願い申し上げます。

さて、振りかえりますと昨年も政治と金や秘書問題で、国会議員の逮捕・辞職が相次ぎ、また外務省職員の不祥事や食肉食品業界での偽装問題、原子力発電所での事故隠しなど、まさに政・官・企業のモラルハザードには、目に余るものがありました。また、中国瀋陽の総領事館事件での外務省の弱腰外交姿勢に加え、長引くデフレ不況経済からの脱出がまだまだ困難な状態で、国民のいらだちは頂点に達しようとしております。いづれにしても平成14年は、なんとなく空一面にどんよりと暗雲が立ち込めているような一年でありました。

一方、このような社会状況の中ではありましたが、日本人が三年連続でしかも二人同時にノーベル賞を受賞するという日本の科学技術の将来にとって本当に明るい話題もございました。政府の科学技術政策の力強い推進とともに日本経済の再生の起爆剤となることを期待したいと思います。

ところで、昨年の国民の最大の関心事は歴史的な小泉首相の平壤での日朝会議でありました。9月17日は、国民の驚きと喜びが瞬時に深い悲しみ

と怒りへ変わった衝撃の1日でありました。金正日が拉致を認めたとはいえ、拉致被害者8名の死亡報告やその後の生存者のご家族の取扱いの経過等を見るに付け、何とも救いようのない怒りが沸々としてきます。しかし、一方日本にとって重要なことはこの拉致問題のみならず、たとえば核開発やミサイルなどの安全保障問題もしかりであります。この極めて危険で異常な政治軍事国家を隣国としてこのままの状態に放置しておくことはできないのであります。今後速やかに北朝鮮政府との忍耐強い交渉や対話をすすめ、或いは日・米・韓の枠組みを通じた外交交渉等を駆使して被害者の家族の早期帰国等拉致問題をまずは早急に解決し、そして北朝鮮を国際的な安全保障体制に組み入れることが急務であると考えております。政治の基本であり原点であります、国民の生命と財産を守るという最も重要な問題に直面した今、出来る最善の努力をして参りたいと思います。

また、本年の最重要課題は、やはり景気回復であります。今、日本経済はあらゆる経済指標が劣悪で、先行き不透明な、人間でいうなれば重病患者であります。確かに深刻な国家財政であり、国家として構造改革、体質改善をすすめなければ21世紀の日本は、よって立っていかないということは十分認識していますが、ここはやはり、冷静な分析と対応が必要であると考え、早急な補正予算の成立に全力を尽くします。そして思い切った投資減税等産業再生に力点をおいた考えられる景気刺激策を力強くすすめ、本年こそは、日本社会を覆っている上空の雲を晴らせたいと思います。